

文部科学省 平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム」選定

# eポートフォリオ による自己教育力の育成

～モバイル端末を活用した参画型看護教育で培うキャリア育成～

看護者としての  
自己教育力の育成

看護力

eポートフォリオ  
システム

人と人

知と知をつなぐ教育

参画力

参画支援  
システム

全国939件申請中

**148**件選定

## 質の高いGPとは

大学設置基準等の改正等への積極的な対応を前提に、各大学・短期大学・高等専門学校における教育の質の向上につながる教育取組を公募。その中から特に優れた取組を選定し、社会に情報提供するとともに、重点的な財政支援を行う施策です。



島根県立大学短期大学部  
出雲キャンパス

## 取組の概要

本取組はeポートフォリオシステムと参画支援システムの展開により、学生の自己教育力を育成する教育方法を実現するものです。

今日の看護職が置かれている現状から、(1)医療の高度化・多様化、地域社会の変化に対応できるよう生涯学習できる人材、(2)看護職の離職が大きな社会問題となっており、その防止策として職業人として主体的にキャリア形成していける人材が求められています。

この認識のもと、本キャンパス内の教職員によるプロジェクトチームを結成し、「看護基礎教育の課程で、自己教育力を培い、主体的にキャリア形成していける人材を育成する」教育を展開するためのシステムを構築します。

具体的には、

看護力①豊かな人間性と倫理観

②専門知識とその実践技能

参画力①関与する意識と課題解決力

②学びの伝達とその表現技能

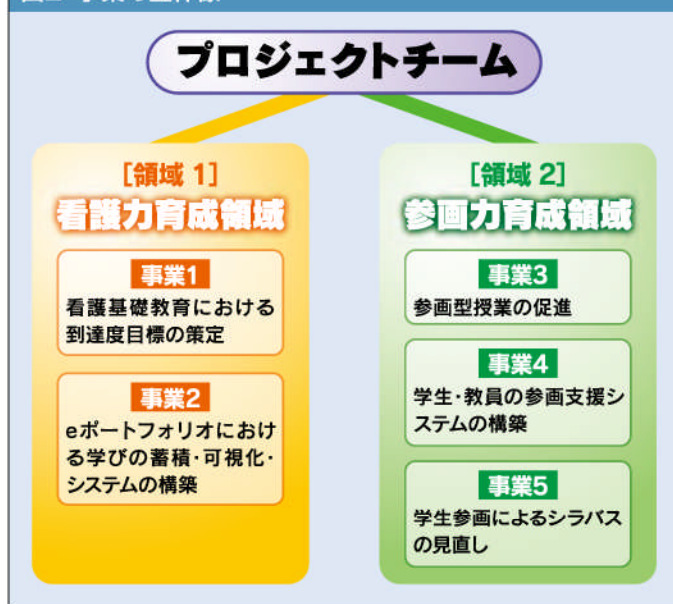
を育成していく教育方法を構築し展開することで、看護者としての自己教育力育成につなげていきます(図1)。

そのために、平成20年度から22年度にかけて、以下に掲げる2領域5事業を展開します(図2)。

図1 看護者に求める自己教育力育成スパイラル・モデル



図2 事業の全体像



### 看護力育成領域

【事業1】では、看護学の分類毎に卒業・修了時に到達して欲しい目標を設定し、さらにレベル別に表現した到達目標を策定します。

【事業2】では、2004年より複数の科目でポートフォリオ学習を試みてきた手法を発展させます。今回、具体的なレベル別到達目標を示すことで、成長する方向性を理解し、学びの蓄積・可視化を可能にするeポートフォリオを開発します。そして、登録制による地域住民・保健医療従事者を加え、学生による自己評価、学生・教員による相互評価、地域住民・医療従事者による他者評価など多様な評価システムを加え、意思ある学びを育むeポートフォリオシステムを構築します。

【事業3】では、2005年より参画型看護教育検討会として実践してきた教育方法を更に発展させます。具体的には、係活動により共同して進めるグループ学習、学生から投稿された学び・評価を次回の授業に活用、学生主導による実習カンファレンス等です。科目間の連携により、これらの有機的な展開を図ります。

【事業4】では、2006年より活用しているモバイル端末から投稿して参画・管理を容易にする参画支援ソフトウェアの改善と活用方法の多様性を検討し、参画支援システムを構築します。

【事業5】では、授業の履修者の協力を得て教員と共にシラバス作りを行い、学生の参画力向上と教員の授業評価・改善を同時に図ります。

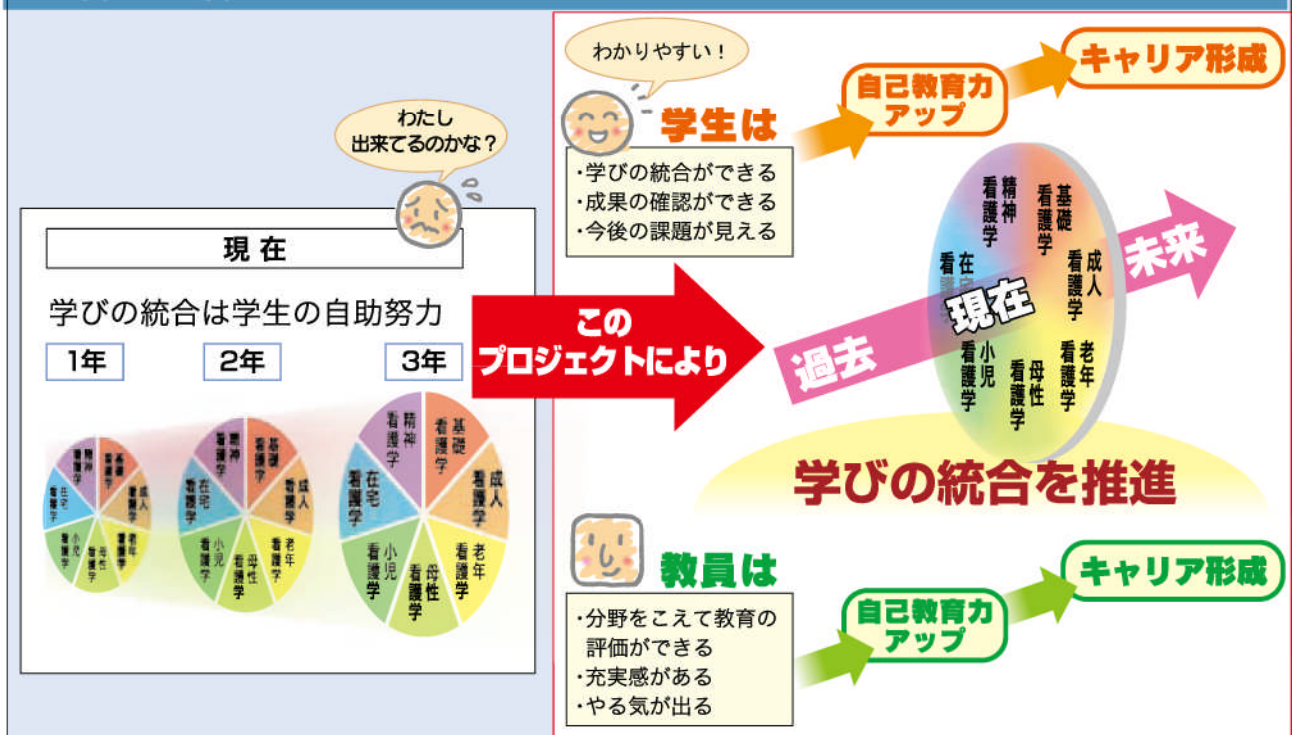
以上の2領域5事業を展開し、重層的な評価体制のもとに自己教育力育成のスパイラル・モデル 具現化することで、県内の医療施設や行政機関、看護協会等とつながり、卒業生・修了生ばかりでなく県内の看護者のキャリア形成につなげていくことが可能となります。

この取組による社会的貢献度は非常に大きいと期待します。

## 取組の効果

現在は一人ひとりの自助努力で学びを統合していますが、eポートフォリオは学びの統合を推進することができます。学生は「学びの統合ができる」「成果の確認ができる」「今後の課題が見える」ことで自己教育力が向上します。また、教員は老年看護学や精神看護学といった看護の「分野をこえて教育の評価ができる」ようになるため、充実感とやる気が増すことで自己教育力が向上します。学生も教員も自己教育力を育成することで、主体的なキャリア形成を培うことができます(図3)。

図3 取組による効果



## 選 定 理 由

本取組は、「看護力」と「参画力」育成のために、現代の学生に欠けている「自己教育力」を強化するという視点から、新しい参画型教育手法に取り組むもので、極めて現代的な教育プログラムとして高く評価できる。特に、モバイル端末を利用し、「参画支援ソフト」や「eポートフォリオシステム」を用いた学習方法は、現代学生にも親しみ易いものであり、授業運営にも新しい効用をもたらすことが期待できることから、他の短期大学においても参考になるものである。さらに、看護力到達目標をレベル分けして詳細かつ具体的に定義し、それに沿って学生や教員はもとより、地域住民・医療従事者などからも評価を受けるといった体制にも学ぶところが多い。また、短期大学部全組織を挙げて熱意をもって取り組む姿勢が認められ、すでに先駆的な取組を経験してきていることから、本取組の実現性は高いと期待できる。(文部科学省)



## 島根県立大学短期大学部 出雲キャンパス

〒693-8550 島根県出雲市西林木町151番地

TEL:0853-20-0200/FAX:0853-20-0201

(URL) <http://www.u-shimane.ac.jp> (Mail) [kyouikugp@izm.u-shimane.ac.jp](mailto:kyouikugp@izm.u-shimane.ac.jp)